

一般向け / 約21分 / 字幕版同時収録

火の用心!命を守る10のポイント

住宅火災を防ぐ習慣と対策



企画意図

近年、住宅火災による死者数は増加しており、2023年には1,000人以上の人が亡くなっています。主な原因は、たばこ、ストーブ、電気器具、コンロなど——身近なところから出火し、大きな悲劇をもたらしているのです。

本作品では、火災の発生を防ぐための**4つの習慣**、出火しても被害を抑えるための**6つの対策**について紹介していきます。どのような状況で火災が発生し、どのように燃え広がっていくのかを説得力のある実験映像等を交えて解説します。

火災から命を守るために、一人一人が心がけること、地域ぐるみで協力しあうことの大切さを訴えます。

一般向け / 約21分 / 字幕版同時収録

防災の備えと意識10か条

能登半島の地震が残した教訓



企画意図

2024年1月の「令和6年能登半島地震」は、強い揺れによる家屋の倒壊や道路の寸断、津波や土砂崩れ、火災など、さまざまな事象が同時多発的に起こる複合災害を引き起こしました。さらに近い将来、都市でも超巨大地震が起り、甚大な被害をもたらすことが予測されています。

本作品では命を守るために、どのような備えと心構えが必要なのかについて、能登半島地震を教訓に10項目にまとめて紹介していきます。

いつどこで起きるかわからない地震に備えるために、今、何ができるかを考えるきっかけを提供します。

一般向け／約 21 分

火の用心!命を守る10のポイント 住宅火災を防ぐ習慣と対策

4つの習慣

1. 寝たばこは絶対にしない

たばこの火は、炎が出ずに燃え続け、その間に有毒な一酸化炭素が発生し続ける。気づいたときには、すでに一酸化炭素中毒で避難することが難しくなっていることもある。

2. ストープの周りに燃えやすい物を置かない

燃えやすい物がストープの近くにあると、何かのきっかけでストープに接触して出火することや、輻射熱から火災になることがある。

3. コンセントの埃を掃除し不必要なプラグは抜く

長い間電源プラグをコンセントに差し込んだままにしていると、たまった埃が湿気をおびて通電状態となり発火し、火災の原因になる。

4. コンロを使うときは火のそばを離れない

コンロで多いのは天ぷら油を使う揚げ物調理中の火災。てんぷら油から発火すると、火柱が高く上がり、消火するのも簡単ではない。

6つの対策

1. 安全装置の付いたストープやコンロを使用

障害物センサー搭載のストープや温度センサーのついたガスコンロなど、安全装置のついた機器を使用することは火災を防ぐために有効な対策のひとつである。

2. 住宅用火災警報器を設置し定期的に点検・交換

素早い消火、避難につなげるために「住宅用火災警報器」の設置が義務づけられている。警報器は古くなると火災を感知しなくなることがあるため、定期的な点検や本体の交換も必要だ。

3. 寝具、衣類及びカーテンは防災品を使用

防災品にはエプロンやカーテン、布団など様々なものがある。こうした防災品を使うことで延焼を抑え、人的被害を減らすことにつながる。

4. 消火器等を設置・確認

住宅用消火器には、火災の種類に応じて、「適応火災」が絵で表示されている。どの火事に使える消火器なのか、確認して設置する。

5. 避難経路と避難方法を常に確保

煙により視界が遮られると、よく知っているはずの家の中がわからなくなり逃げ場を失ってしまう。避難経路と避難方法を常に確保し、日頃から備えておく。

6. 地域ぐるみの防火対策

火災の被害を最小限にするためには、地域ぐるみの防火対策が重要となる。日頃から交流し信頼関係を築いておくことや、地域の防火・防災訓練に積極的に参加することも大切だ。

一般向け／約 21 分

防災の備えと意識10か条 能登半島の地震が残した教訓

1. 住まいの耐震性を確認

地震で命を失わないためには、自分の住んでいる家が倒壊しないようにしておくことが重要だ。

2. 家具の転倒・落下・移動防止

家具が倒れてきても下敷きにならないよう配置を工夫すること、しっかり固定することが被害を減らすことにつながる。

3. 出火防止と初期消火

能登半島の地震の後、輪島市で発生した火災の消火活動は困難を極めた。地震の後には、まず出火を防ぐこと、出火した場合でも初期消火をすることが大切だ。

4. けがの防止対策

地震が起きると、停電することがある。暗闇の中で歩き回るとけがの原因になるため、懐中電灯やランタンなどの照明器具をすぐに使える場所に備えておく。

5. 津波対策

津波から命を守るには、早く高いところに逃げる。しかし、倒壊した家屋に閉じ込められてしまうと、津波から逃げることもできなくなる。家屋の耐震化は、津波対策としても重要だ。

6. 地域の危険性を把握

自分の地域でどのような危険があるのかを把握するには自治体などが出しているハザードマップが役に立つ。日頃から自分の住む地域のハザードマップを確認しておく。

7. 家族の安否確認

大地震発生後は、安否確認をしたくても固定電話や携帯電話がつかなくなるおそれがある。災害用伝言板（web171）を利用し、別々の場所にいる家族が安否確認する方法を見ていく。

8. 非常用品を備える

いざというとき必要なものは、常に身につけておく。日頃から災害時に役立つアプリをスマートフォンなどに入れておき、確認しておこう。

9. 災害関連死を防ぐ

お薬手帳や、入院歴・通院歴をまとめたものを常に持ち歩くようにすると、緊急時に医師が病状を知る手がかりになる。

10. 防災知識を身につけ防災行動力を高める

命を守るためには、日頃から新聞やテレビ、インターネットなどで防災に関する情報を収集し、知識を身につけておくこと、防災訓練に参加し必要な技術を身につけておくことが大切だ。

■ライブラリー価格 本体 ¥68,000 (税込 ¥74,800)

■ライブラリー価格 本体 ¥68,000 (税込 ¥74,800)

監修 公益財団法人 市民防災研究所

企画・制作統括 高木 裕己 脚本・演出 川崎 けい子

制作・著作 株式会社 映学社

■DVD [カラー] ※字幕版も収録されています ■2025年・映学社作品

○ 株式会社映学社が製作する映像、DVD、ロゴ、イラスト、チラシ、ウェブサイト等全ての著作物の著作権は、映学社もしくは関係権利者の著作権者に帰属しています。これらの著作物を権利者の許諾を得ずに、複製、転載、改変、譲渡、配布、公衆送信（送信可能化を含む）、放映等に利用することは原則として法律により厳しく禁止されています。

○ 本チラシで紹介しているDVDは、DVDビデオディスクです。CD-ROMプレイヤーではご覧になれません。必ず市販のDVDビデオプレイヤーでご覧ください。

なおDVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。詳しい再生上の取扱いについては、ご使用になるプレイヤー、テレビなどの取扱説明書をご覧ください。



株式会社 映学社

EIGAKUSYA CO.,LTD.

〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目7番8号らんぜん5ビル
TEL: 03-3359-9729 (代表) FAX: 03-3359-4024
info@eigakusya.co.jp
https://www.eigakusya.co.jp/

●お問い合わせ、お買い上げは……